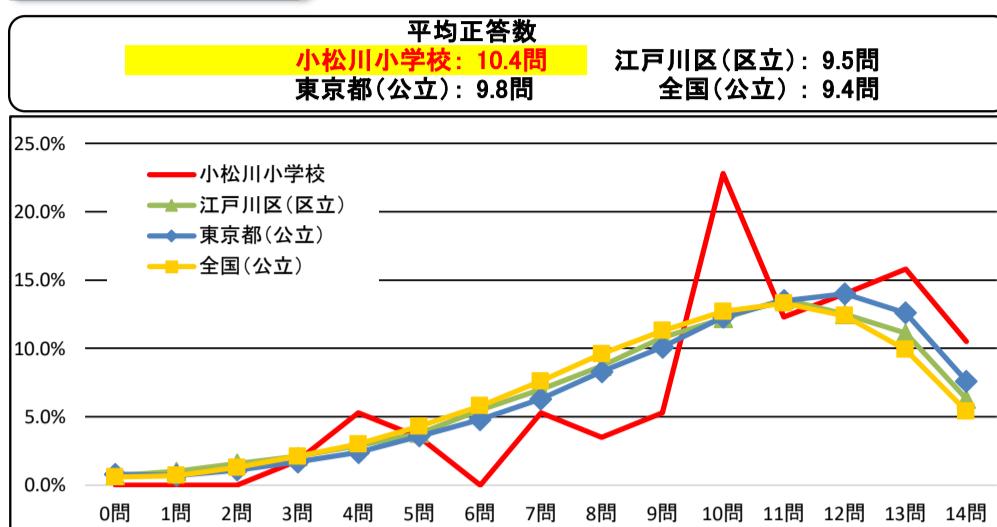


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】小松川小学校

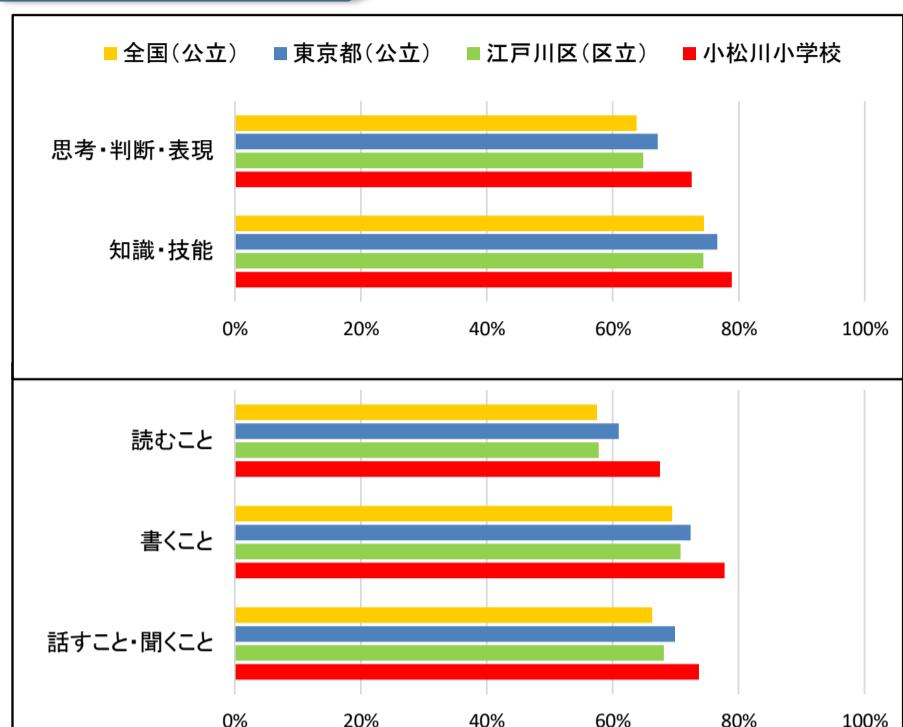
正答数分布



【平均正答率の差】

小松川小学校	74%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	4.0

「領域別」の結果

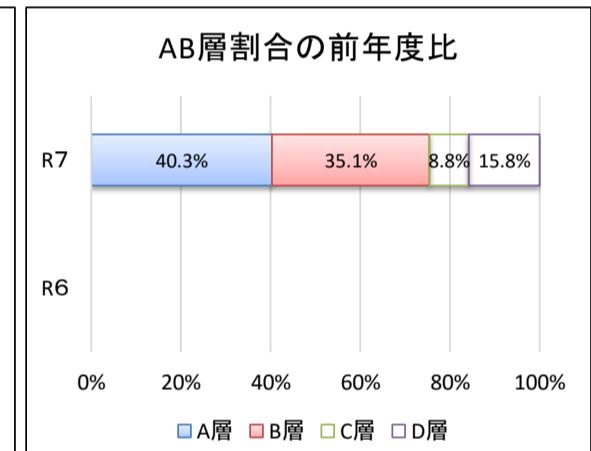
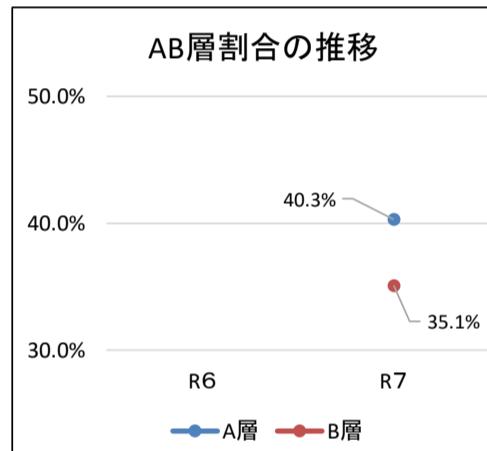


四分位における割合 (都全体の四分位による)

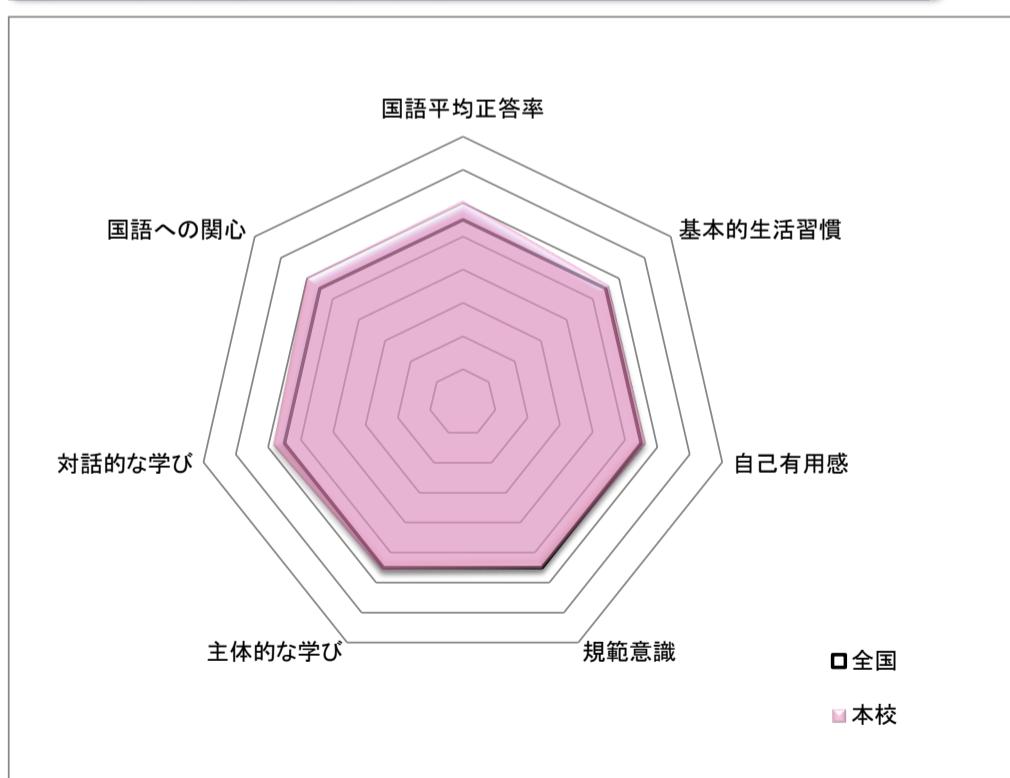
上位 ← → 下位

国語	A層	B層	C層	D層
	12~14問	10~11問	8~9問	0~7問
小松川小学校	40.3%	35.1%	8.8%	15.8%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

他の観点と比較して、国語平均正答率が突出している。全国と比較して7.2%ほど高くなっていることが分かる。また、国語への関心が高い傾向にある。全体的に見ると、バランスのよい七角形となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者が「読み聞かせ隊」として、朝読書の時間に各学級で読み聞かせを行っている(およそ月一回)。また、各学年・学級で音読を家庭学習の中に取り入れ、家庭でのチェックをお願いしている。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

AB層の割合は、75.4%と都や区と比較しても大幅に上回っている。課題として、CD層が授業についていけず差が広がってしまう点が挙げられる。学習内容が定着しきれていない児童には早期に個別対応することが求められる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

江戸川区の国語スタンダードに基づき、授業を展開していく。また教員を小グループに分け、互いの授業を参観したり、他校、他区の指導教員の授業を参観し、どんな内容であったかなどを教職員で共有したりしながら、本校の実践につなげている。

・基礎学力の保障

読解力向上、知識の習得を目的として、よむYOMUワークシートの取組を週に1回ほど実施している。読書意欲誘発に伴って文章への抵抗を減らすことができるよう、異学年交流読み聞かせを実施している。

・学習習慣の確立

こまっこタイムに読書時間を確保し、読書活動を実施している。漢字学習を毎日の基本的な宿題とすることで、習慣づけを行っている。

・AB層の育成

タブレットのマイシードを活用し、授業の課題が終わった児童に追加の課題を出したり、児童がレポートを作成したりすることで、それぞれの実態に合わせた個別指導を行っている。